

祝 辞

愛媛県俳句協会会長 相原左義長

平成二十二年二月は内外ともに、冬季オリンピックに於けるカナダのバンクーバーに釘づけされつ放しでした。特にわが愛媛県からは松山大学一年生（十九歳）の「青野 令」選手が「スノーボード」に出場し、日本人を沸かせた。勿論地元愛媛県においても声援に力が入った。今回の「えひめスポーツ俳句大賞」に満場一致で一般の部からは、『青野 令 飛んで世界の雪光る』 愛媛 篠崎伶子さんと、四年に一度の「えひめスポーツ俳句特別賞」には、『村上の槍秋天を刺しにけり』 愛媛 宮崎謙一氏でした。またジュニアの部では、『えひめジュニアスポーツ俳句大賞』に、『マラソンの足取り軽く春近し』 愛媛 中西ちなつさんが、「えひめジュニアスポーツ俳句特別賞」には、『投げたまま春一番ストライク』 愛媛 山本啓仁氏を「報道関係賞」として一般、ジュニアともにNHK松山放送局賞以下八社が錦上花をそえて戴いた。また「ハイブリット部門」では、「ハイブリッド大賞」に『天高く吼えて騎馬武者帽子狩り』 愛媛 菅貴久代さんで、この部門では一人で写真・俳句を作品化するので感性が問われる。どうしても応募者に限りが生ずるのではないかと言う気がして来る。写真と俳句をそれぞれ別々の合作でもいいのではないだろうかと考えられる。俳画では一人が俳句と画を作る場合が主であるが、二人の合作もありそれもまた楽しい。今後の検討課題としておこう。

第8回えひめスポーツ俳句大賞応募のPR、受け付け、応募作品総数4198句の整理・選句、そして表彰式に至るまでの煩雑な作業に、事務局及びその関係者のご努力に対すると共に財団法人愛媛県体育協会の発展と七年後の愛媛県国民体育大会、毎年実施される愛媛県総合文化祭の盛会を祈念し私の祝辞とします。